

貴重書名品展

展示資料一覧

二〇二〇年六月十五日(月)～九月三十日(水)

物のぐさたらうえまき
物臭太郎絵巻 写 一卷

室町時代物語。もと冊子本であつたものを卷子に改装したもので、六十一紙を継いでいるが、そのときの錯簡、落丁が見られる。本巻は最も原絵巻に近いもので、かつ書写年代も原絵巻の成立時よりそれほど時間が経過していないものと考えられ、慶長期(一五九六～一六一五年)を下らぬ頃のものと考えられている。

げんじものごたり
おさな源氏物語 刊 五冊

寛文十二年(一六七二)
野々口立圃作・画
幼少婦女子のために『源氏物語』を要約したもの。同じ著者の『十帖源氏』を更に簡略化している。寛文六年(一六六六)・同十年(一六七〇)版などが知られるが、これは寛文十二年(一六七二)の松会版。版本の絵に色を塗った丹緑本である。

やり
鍵の権三重帷子 刊 一冊

近松門左衛門の世話物浄瑠璃。七行四十九丁本。現在六種の正本が知られているが、そのうちの初版と考えられる。

しんきょく
神曲 一冊 一七二七年 ダンテ著

キリスト教的世界観による人生の縮図を描いた一大叙事詩。この版は注目すべきもので、そのテキストはかなりの信頼度がある。

いせものがたり
伊勢物語 写 一冊 伝兼好筆

奥に兼好法師の筆跡かとする烏丸光広の識語がある。兼好の真跡ではないが、同時代(十四世紀前半)の書写だろう。本文は定家本と少異がある程度だが、定家一門と対立する清輔流の書入れがあるのが注目される。

ただけ
あやね竹 刊 三冊

江戸の菱川師宣に匹敵する浮世絵の先駆者である上方の浮世絵師・大森善清による、中国古典を題材にとった「絵本」。そもそも本書は現存するものが極めて少なく、それだけでも貴重であるが、大阪府立大学本は現存唯一の完本であり、大森善清の画業を知るうえでの基準作となる。

ねこ
猫の墓 明治四十二年(一九〇九)掲載

自筆原稿。明治四十二年一月二十三、二十四日に「大阪朝日新聞」、同年同月二十五、二十六日に「東京朝日新聞」に掲載された『永日小品』の第八編で、「吾輩は猫である」のモデルとなった飼猫の死にまつわる話が書かれている。

小品とは、エッセイ風の表現に物語を組み込んでいく手法で、日露戦争後に注目されるようになったジャンル。原稿用紙は、漱石の著書の装丁を多く手掛けた橋口五葉がデザインし、馴染みのある春陽堂が印刷した漱石山房原稿用紙である。

えい わたいやくしゅうちんじしよ
英和对訳袖珍辞書 刊 一冊 改正増補版

慶応三年（一八六七）

堀達之助主編 堀越亀之助補

別名開成所辞書ともいう。英語はABC順、日本語は縦組。英語の活字と日本語の木版を組み合わせて印刷したもの。

きょうしばいばんづけ
京芝居番附 刊 一冊

明和元年（一七六四）十一月京北側芝居上演から、寛政三年（一七九一）七月京北西側芝居上演までの、京番附五十枚。空白の多い近世中期の京歌舞伎の興行を知る新資料を多数含む。

さぬきのこくしょうどしまえず
讃岐国小豆島絵図 一鋪 天保十四年（一八四三）以降

「塩飽屋文書」の一史料である。「塩飽屋文書」には美作国津山藩（岡山県津山市）の大坂蔵屋敷関係文書が含まれているが、天保九年（一八三八）に島西部の六か村（池田・土庄・湊崎・上庄・肥土山・小海）が津山藩の領地となっていたことから、この絵図が残されていたのであろう。天保十四年に設置されたという陣屋が記されていることから、それ以降に作成されたものと考えられる。

Japanese Fairy Tales Series (日本昔噺) 刊 二十冊

日本昔噺の英訳。縮緬紙（縮緬のように細かく皺を寄せた和紙）に多色刷。長谷川武次郎が明治十八年（一八八五）から発行しはじめたシリーズで、一話一冊、二十冊揃。明治期に来日した外国人が帰国する際のお土産として重宝がられた。

《展示資料》

Momotaro (桃太郎)

Battle of the monkey and crab (猿蟹合戦)

Kachi-Kachi Mountain (かちかち山)

The Hare Of Inaba (因幡の白兎)